

優れた教師を目指して

奈良教育大学 教師力サポートオフィス 教職ノート



ドキュメント



資料



データ



ワークシート



教職ノートの使い方

奈良教育大学 教師力モデル開発プロジェクト

奈良教育大学は、学校教育教員養成課程で学ぶあなたの教職の学びを支え、確かな教師力を身につけて卒業してもらうために、国の予算を得て、「教師力モデル開発プロジェクト」という名前のプロジェクトを進めてきました（平成22-24年度）。その一環として、プロジェクトでは、いまあなたが手にしている「教職ノート」を作成しました。

この「教職ノート」は、みなさんがより質の高い教職の学びを得るために編まれたガイドブックであり、ワークブックです。あなたが本学の教員養成カリキュラムを履修し、教職の学びを積み重ねていくために必要な情報が記載されています。また、教員養成カリキュラムの節々において、あなたが教職の学びを深めるために考えておくべき事柄が示されています。4年間、大事に使うようにしてください。

教職ノートの使い方

1. 下記の科目等を履修するときには、とくに担当教員から指示がある場合を除き、このノートを持参してください。

教職系列：教育基礎論、教育心理学、教育行政経営論、教育社会学、教育方法・メディア（初等・中等）、生徒指導・教育相談Ⅰ（初等・中等）、カリキュラム論（初等・中等）、道徳教育の理論と方法（初等・中等）、特別活動の理論と方法（初等・中等）、生徒指導・教育相談Ⅱ（初等・中等）

実践系列：教職入門、現代教師論、介護等体験、教育実習スタートアップ、教育実践基礎演習、教育実習事前・事後指導、教育実習（基礎）、教育実習（応用）、教職実践演習

2. 各ページのタイトル部分にアイコンをつけています。目的に応じて利用してください。



ドキュメント … 教職科目ならびに教師力に関する文字資料が載せられています。



資料 … 図や表などのビジュアルな資料が載せられています



データ … 各種の統計や数値のデータが載せられています。



ワークシート … 書き込みができるワークシートです。担当教員に提出を求められることもあります。

3. ページは追加して配布されることがあります。その場合は、必ずこのノートに綴じ込んで、散逸しないように注意してください。

教職ノートを使う前に

1. 学生プロフィールを記入してください。
2. ワークシート  が足りなくなった場合は、教師力サポートオフィス（次世代教員養成センターサポートルーム内）で補充することができます。また、ウェブサイトからダウンロードすることもできますので、活用してください。

<http://www.nara-edu.ac.jp/TCP/>



教師力とは？

教師力とは？

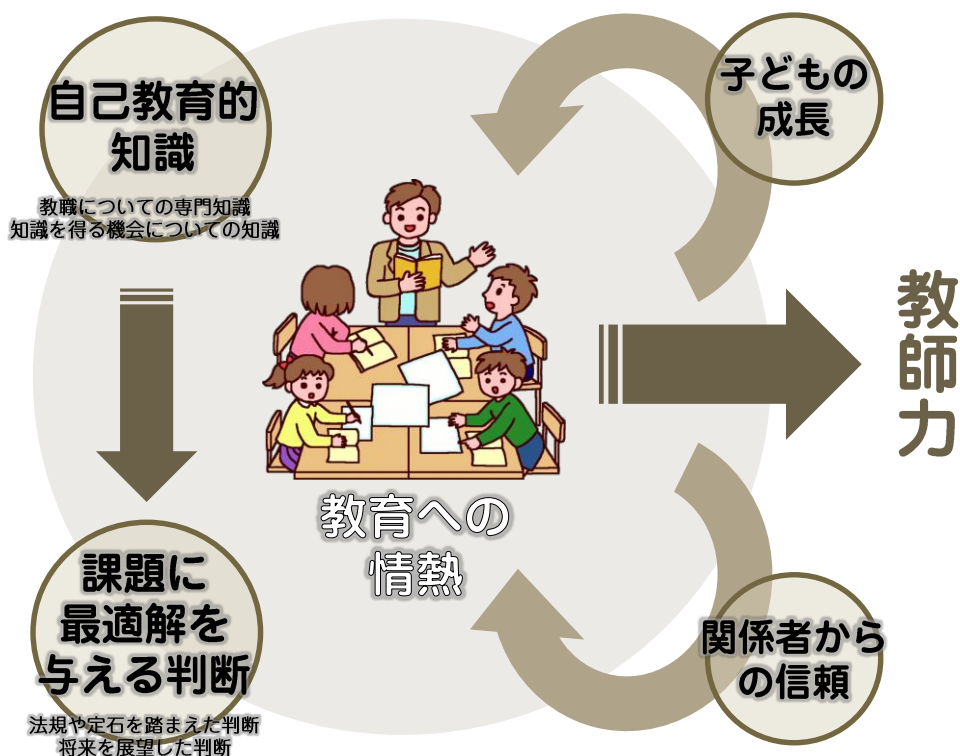
あなたは学校教育教員養成課程の学生です。ですから、実際の進路はどうあれ、大学での4年間は、幼稚園や小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員になるための専門的な教育課程である「奈良教育大学・教員養成カリキュラム」を履修することになります。

教員養成カリキュラムを履修することで、あなたは、学校や園の現場に出て教育活動に従事するための知識や能力を身につけていきます。とりわけ、幼稚園や小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の現場で教員として求められる知識や能力の総体を、このノートでは教師力(teachers competency)と呼んでいます。

現職の教員たちは、どのような知識や能力をもって、学校での教育活動に従事しているのでしょうか。また、それらの知識を更新し、能力を伸長するために、どのような取り組みを行なっているのでしょうか。あなたは教員になる前の「養成段階」の学生ですから、当面はその期間のことについて考えを深めなければなりません。教員免許状を取得するために必要な科目の単位を順番に揃えているだけでは、学校でじゅうぶん役立つ教師力を身につけることは到底できないのです。

まずは教師力の「正体」について考えましょう。大学の講義室で教職科目を履修したり、現場で教育実習を行ったりするなかで、あなたはどんな知識や能力を身に付けなければならないのでしょうか。このノートでは、以下のような「動的教師力モデル」を提案します。そして、このモデルを下敷きにしながら、あなたの教師力の成長の手助けをしていきます。

＊動的教師力モデル図





教師力を発揮するための4つの源泉

「動的教師力モデル」では、あなたが現場において教師力を発揮するための「4つの源泉」を示しています。それぞれの概要を説明しましょう。

自己教育的知識

教員は専門職(profession)と呼ばれる職業です。教員は、教育活動を遂行するために欠かすことができない専門的で高度な知識をもとにしながら、日々の教育活動に従事しています。こうした知識には、日々の教育活動に直接的に関係する具体的で個別的な知識もあれば、教育観・子ども観・指導観など、これらの具体的で個別的な知識を支える一般性の高い知識もあります。また、経験を積んだ教員であっても、このような知識をすべて身に付けているわけではありません。知らないことがあれば、どこに行けば、また、誰に聴けばその知識を得ることができるのかという知識を得る機会についての知識も必要になります。

課題に最適解を与える判断

ただ専門的で高度な知識をもっているだけでは、教員の仕事は務まりません。これらの知識を活用し、次々と生じてくる教育課題に効果的に対応し、最適解を導かなければなりません。教員は、職務を遂行する上で、「どのように行動すべきか」という判断を頻繁に行わなければならないのです。こうした判断には、まさしく目の前で生じている教育課題に対応するための具体的で個別的な判断もあれば、個別の事態を越えて「教員としてどう行動すべきか」を規定する一般性の高い判断もあります。

子どもの成長

教員が専門的で高度な知識をもち、教育課題に効果的に対応したとき、教員の目の前にいる子どもたちは大きく成長します。今までわからなかったことがわかるようになり、できなかったことができるようになり、何より子どもたちは「努力すればわかるようになる、できるようになる」ということを学びます。計算ができる、跳び箱が跳べることも大切ですが、この学びを子どもたちに実感させることこそが教育なのです。このような子どもの成長は教員へ還流し、教育への情熱を醸成します。

関係者からの信頼

教員は、専門職としての知識を個々の教育課題に適用しながら、「どのように行動すべきか」に関する具体的な判断を指針として得た上で、実際に行動をしなければなりません。このとき、単に教育的に「正しい」行動をすればよいというわけではありません。勤務校の校長先生・教頭先生・同僚教員、子どもたち、保護者や地域住民など、教育の関係者(stakeholder)の信頼を得るような「妥当な」行動をしなければならないのです。このようにして得られた関係者からの信頼は教員へ還流し、教育への情熱を支えます。

ある教員が、相互作用するこれらの4つの源泉を拠り所にして、具体的な教育課題（場面）に対応するなかで発揮しているのが教師力です。そういう意味では、教師力とはきわめて「動的な力」であるということもできるでしょう。

あなたが学校現場で教育活動に従事するためには、こうした教師力が十分に発揮できる状態を維持しておかないといけません。とりわけ「養成段階」のあなたにとっては、教員養成カリキュラムを履修するなかで、「どのようにして4つの源泉を質の高いものにしていけばよいか」「どのようにして教師力を発揮すればよいか」について学んでいきます。

教師力とは、現場に赴いてはじめて身についてくるものではありません。教職科目を履修したその瞬間から、あなたの教師力の養成は始まっているのです。



学校の1年間の計画

学校の1年

各学校では、年度当初にその1年の計画が立てられます。学校行事の呼称や実施時期は学校により異なりますが、その目的や内容は全国的に大きな差はありません。ある幼稚園、小学校、中学校の主な計画を以下にあげます。高等学校の計画は中学校と類似しています。

	幼稚園	小学校	中学校
4月	入園式 学級写真	入学式 家庭訪問（3日間） 授業参観 学級写真	入学式 家庭訪問（4日間） 部活動へ入部 授業参観
5月	園外活動 日曜参観	学校公開 避難訓練（不審者） 校外学習	スポーツテスト 校外学習 1学期中間テスト
6月	親子ふれあいタイム プール開き	学力テスト	三者懇談会 1学期期末テスト
7月	避難訓練（不審者） 夏季休業（～8/31） 夏休みプール 地区清掃（PTA）	個人懇談会 夏季休業（～8/31） 夏休みプール 地区清掃（PTA） 親子クッキング（PTA）	避難訓練（地震） 教育相談 夏季休業（～8/31） 地区清掃（PTA）
8月	夏休みプール	校庭キャンプ（PTA） 夏休みプール	
9月	避難訓練（地震） 地区懇談会 社会見学（PTA）	水泳記録会 地区懇談会 社会見学（PTA） 運動会	高校説明会 地区懇談会 修学旅行 社会見学（PTA）
10月	運動会 お楽しみ会	授業参観 福祉体験学習 校外学習 校内フェスティバル ふれあい給食会	体育大会 2学期中間テスト 文化祭 福祉体験学習
11月	園外活動	校内音楽会 授業参観 避難訓練（火災）	避難訓練（火災） 三者懇談会
12月	個人懇談会 親子ふれあいタイム 冬季休業（～1/7）	もちつき大会（PTA） 個人懇談会 冬季休業（～1/7）	2学期期末テスト 冬季休業（～1/7）
1月	避難訓練（火災） 伝承遊び	避難訓練（地震） 校内図画工作展 支援学級学習発表会	百人一首大会 スキー学習
2月		入学説明会 授業参観	私立高校入学試験 入学説明会
3月	授業参観 卒園式 学年末休業（～4/7）	6年生を送る会 卒業式 学年末休業（～4/7）	学年末テスト 卒業式 公立高校入学試験 学年末休業（～4/7）



学期と長期休業

学期と夏季、冬季、学年末の長期休業日の日程は、幼・小・中学校は市町村の学校管理規則、高等学校は都道府県の学校管理規則で決められています。近年、4月から10月中旬までを前期、10月中旬から3月までを後期とする2学期制を取り入れている学校も散見されます。

また、長期休業日や創立記念日は、園児、児童、生徒は休みになりますが、教職員は勤務日になります。多くの教職員はこの期間に研修会に参加したり、学校で教材研究をしたりと、自己の研修に充てています。

学校と地域との関係

入学（園）式、卒業（園）式、運動会（体育大会）などへは、自治会長などの地域の代表の方々も招待されます。そのため、同一地区の学校では、これらの日程は細かく調整されています。

P T Aの行事

多くの学校には、P T Aという保護者と教職員の組織があります。P T Aは学校とは切り離された組織ですが、学校と密接に連携しながら活動しています。学校の教職員もその会員です。

前ページの表のなかに、小学校欄に校庭キャンプ（PTA）、もちつき大会（PTA）などがあるように、学校ではP T A主催の行事が計画されていることがあります。多くは土日祝日などの保護者が参加しやすい日が充てられますが、教職員が参加することもあります。

定期テスト

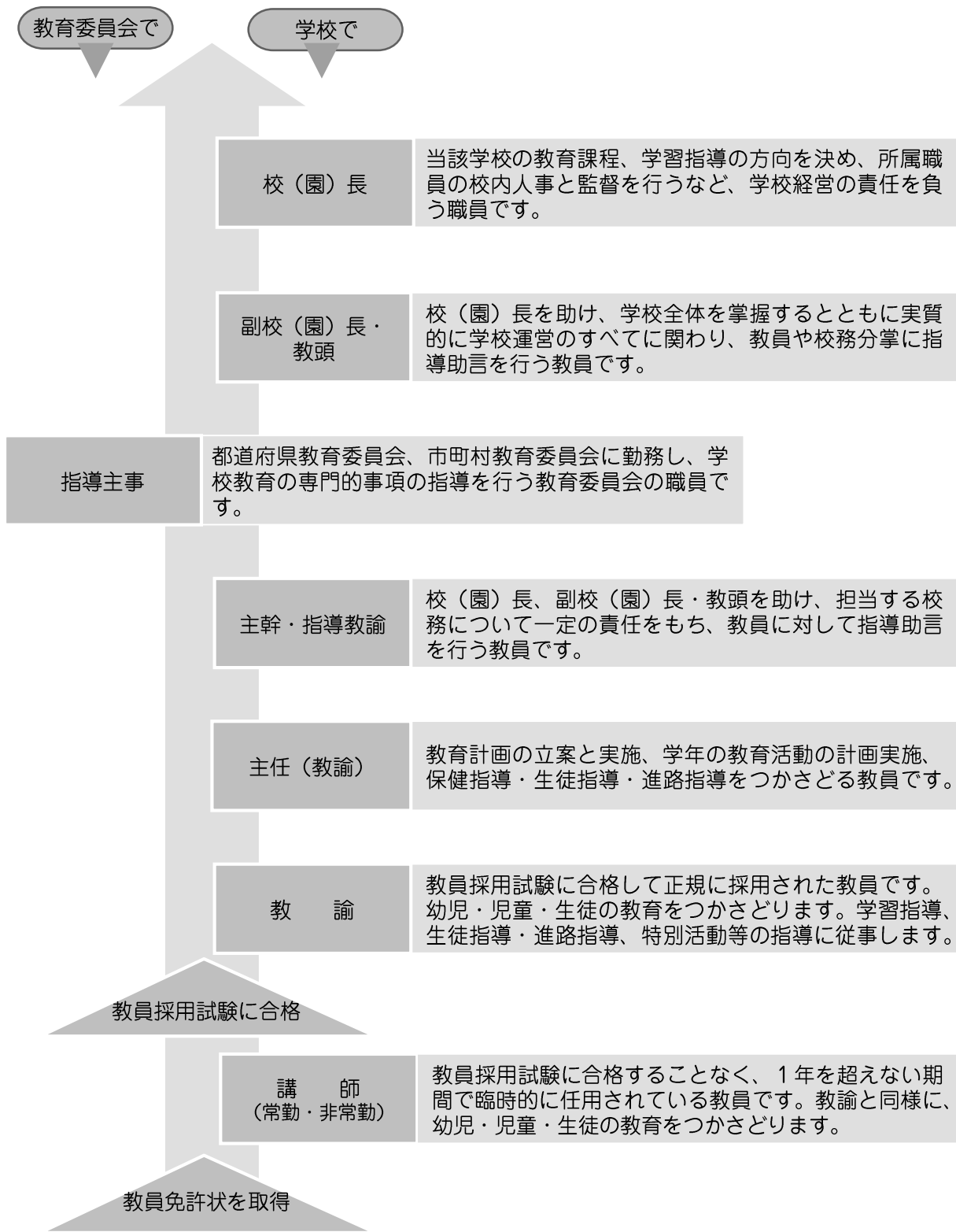
中学校や高等学校では定期テストの期間があり、その1週間ほど前から部活動などが休止になります。高体連、高文連、中体連など学校教育関係団体が主催する試合や大会の多くは、この期間を避けて計画されます。

教員のさまざまな職

教員の職階や職種

ひとくちに教員と言っても、さまざまな職階や職種があります。どの教員も最初は「講師」や「教諭」から教員生活をはじめますが、その後は枝分かれをしていきます。

教員のさまざまな職階や職種の内容について知りましょう。





教員と法律

学校の教員として仕事を行っていくためには、教育にかける熱意と子どもに対する愛情を欠かすことは出来ません。その一方で、熱意と愛情さえあれば、教員の仕事が行えるというものでもありません。とりわけ公立学校の教員は公務員（教育公務員）ですから、一般的な地方公務員と同様に、関係する法律の定めにより教育活動を展開していかなければなりません（リーガルマインド）。

職階や職種に応じた職務内容を確認しておきましょう。

校（園）長	教諭の専修免許状又は一種免許状を有し、教育に関する職に5年以上あったこと、これと同等の資格を有すること、一定の年齢に達していること（都道府県により異なる）が資格要件になります【学校教育法施行規則第20条参照】。都道府県教育委員会が行う任用試験に合格し任用されます。
副校（園）長・ 教頭	校（園）長の資格要件を準用します【学校教育法施行規則第23条参照】。小中高等学校の教員または指導主事が都道府県教育委員会が行う任用試験に合格し任用されます。副校（園）長という職を置くか、教頭という職を置くかは都道府県により異なります。
指導主事	教育に関し識見を有し、学校教育に関する専門的事項に教養と経験があること、一定の年齢に達していることが資格要件になります【地方教育行政の組織及び運営に関する法律第19条参照】。小中高等学校の教員が都道府県教育委員会が行う任用試験に合格し任用されます。
主幹・指導教諭	主幹・指導教諭の職にふさわしい人材であること、一定の年齢に達していること（都道府県により異なる）が資格要件になります【学校教育法第37条9項、10項参照】。都道府県教育委員会が行う任用試験に合格し任用されます。
主任（教諭）	主任の職にふさわしい人材であることが資格要件になります。主任には、教務主任、学年主任、保健主事、生徒指導主事、進路指導主事（中高のみ）があります【学校教育法施行規則第44条、第45条、第70条、第71条参照】。校務分掌上の役職として校長が任命します。
教 諭	大学等で必要単位を修得し、教員免許を取得した者が、都道府県及び政令指定都市の教育委員会が行う教員採用試験に合格し、任用されます【教育職員免許法第3条、学校教育法第37条11項参照】。どこの学校へ赴任するかは教育委員会が決めます。
講 師	教員免許を取得し教員を希望するが、教員採用試験に合格していない者は講師として任用されます【地方公務員法第22条2項参照】。これとは別に、教員採用試験に合格した外国籍の者への適用もあります。常勤講師と非常勤講師があり、前者は教諭と同じ職務、後者は担当する授業にのみ従事します。どこの学校へ赴任するかは教育委員会が決めます。

なお、学校には、これらの職階・職種のほか、助教諭、養護教諭、養護助教諭、栄養教諭、司書教諭、実習助手、技術職員、事務職員などの教員や職員が勤務しています。



教育職員免許状

教育職員免許状（教員免許状）について知ろう

幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校などの教員（教諭、養護教諭、栄養教諭、講師など）になるためには、それぞれの校種や教科に相当する免許状をもっていなければなりません。以下に、免許状の種類と教科・領域をあげます。あなたが本学で取得しようとしている免許状（主免と副免）はどれですか。そして本当に必要な免許状はどれですか。しっかり自覚をしながら、当該の免許状取得に向けて教員養成カリキュラムを履修していきましょう。

現在、我が国で出されている教員免許状の種類は下表のとおりです。ただし、奈良教育大学でここに書かれているすべての免許状を取得できるわけではありません。奈良教育大学で取得できる免許状の種類については、「履修の手引き」を確認してください。

校種	普通免許状	免許教科・領域
幼稚園	専修免許状 一種免許状 二種免許状	
小学校	専修免許状 一種免許状 二種免許状	
中学校	専修免許状 一種免許状 二種免許状	国語 社会 数学 理科 音楽 美術 保健体育 保健 技術 家庭 職業 職業指導 外国語 宗教 など
高等学校	専修免許状 一種免許状	国語 地理歴史 公民 数学 理科 音楽 美術 工芸 書道 保健体育 保健 看護 家庭 情報 農業 工業 商業 水産 福祉 商船 職業指導 外国語 宗教 など
特別支援学校	専修免許状 一種免許状 二種免許状	視覚障害者 聴覚障害者 知的障害者 肢体不自由者 病弱者（虚弱者）
特別支援学校 自立教科	一種免許状 二種免許状	理療 理学療法 音楽 理容 特殊技能
特別支援学校 自立活動	一種免許状	言語障害教育 聴覚障害教育 肢体不自由教育 視覚障害教育
養護教諭	専修免許状 一種免許状 二種免許状	
栄養教諭	専修免許状 一種免許状 二種免許状	



免許状の種類

① 普通免許状

大学などで必要単位を修得することにより取得できる幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校教員の免許状です。教育職員免許状は、都道府県教育委員会から授与されますが、普通免許状はすべての都道府県で有効です。大学院修士課程修了を基礎資格とする専修免許状、大学卒業を基礎資格とする一種免許状、短期大学卒業を基礎資格とする二種免許状があります。

② 特別免許状

教員免許状をもたない社会人を学校に迎えるための免許状で、授与された都道府県でのみ有効です。

③ 臨時免許状

普通免許状を有する人を採用できない場合に授与される免許状で、授与された都道府県でのみ有効です。

教員資格認定試験（免許状授与の特例）

普通免許状は、特例として教員資格認定試験に合格した者にも授与されます。小学校教員資格認定試験、特別支援学校教員資格認定試験、幼稚園教員資格認定試験があります。大学在学中に受験できるものもありますので、希望する人は情報を集めておきましょう。

参照 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/nintei/

免許状の更新制

平成21年度から、教育職員免許状に10年の有効期限を定め、免許状更新講習を修了した教員等に免許状の更新を認める制度が導入されました。この制度の目的は、その時々で求められる教員としての資質能力が保持されるよう、定期的に刷新を図ることにあります。

所有免許状と教員採用候補者選考試験

公立小中高等学校の教員採用候補者選考試験（以下、教員採用試験という）は、都道府県および政令指定都市単位で行われます。そこでは、所有免許状に応じてどの校種教科を受験できるかが決まるわけですが、複数の免許状を所有している人を優遇したり、さまざまな特別選考を実施している都道府県もあります。たとえば、奈良県（平成29年実施）では小学校または中学校を受験する人で小中両方の普通免許状を所有している人、中学校を受験する人で司書教諭の資格を所有している人には6点加点するとしています。これらは都道府県および政令指定都市により、また試験の実施年により異なりますが、免許状取得には、長期にわたる計画が必要になりますので、早くから準備をしておいて下さい。



教員採用試験

優れた教師を目指して

教員採用試験について知ろう

大学などで普通免許状を取得した後、実際に教員になるには、公立幼小中等学校の場合は各都道府県や政令指定都市（幼稚園は各市町村）が行う教員採用試験に、国立や私立幼小中等学校の場合はそれぞれの学校が行う採用試験に合格しなければなりません。以下、主に公立幼小中等学校の教員採用試験について述べます。

教員採用試験の実施時期

教員採用試験の実施時期は、都道府県や政令指定都市により異なります。以下に、教員として採用されるまでの大まかな月日をあげます。自分の希望する都道府県の試験月日を事前に把握しておきましょう。

願書提出：4月上旬～6月上旬

1次試験：7月

2次試験：8月上旬～9月下旬

合格発表：9月中旬～10月下旬

最終面談：1月下旬～3月下旬（配置される各市町村などでの面談）

教員採用試験の内容

多くの都道府県や政令指定都市では、一般教養、教職教養、専門教科、実技、論文、面接の試験が、一次試験、二次試験の2回に分けて行われます。これらでは、子どもたちを指導する教員としての力（教師力）を試す試験が実施されます。

一般教養、教職教養、専門教科は、多くの場合ペーパーテストですので、その分野の知識が必要となります。早いうちから問題傾向（よく出題される分野がある）を調べ、準備をしておきましょう。

実技、論文、面接の試験では、教員として必要な技能や判断力が試されます。たとえば、小学校の実技試験では、水泳やピアノ演奏の試験があるのですが、ここで重視されるのは水泳選手やピアニストに要求されるスピードや演奏技術ではありません。たとえ泳ぎ方や演奏がスムーズでなくても、水泳やピアノ演奏に真摯に対峙しているか否かが評価されます。また、論文や面接では、回答した内容以外に判断力や人柄もが表出します。さまざまな教育課題に対して、正しい認識と自分の考えをもてるようにしておきたいものです。

平成30年度奈良県・大和高田市公立学校教員採用試験（平成29年実施）

（１）募集人数、倍率（奈良県教育委員会発表）

① 小学校	170人程度	4.3倍
② 中学校	82人程度	7.1倍（教科ごとに募集定員あり）
③ 高等学校	49人程度	9.6倍（教科ごとに募集定員あり）
④ 特別支援学校	35人程度	3.8倍
⑤ 養護教諭	12人程度	9.3倍
⑥ 栄養教諭	6人程度	5.0倍

（２）加点・特別選考

以下に相当する人は採用試験１次試験に際し加点や特別選考がありました。詳しくは奈良県教育委員会のウェブサイト等を参照してください。

- ①小学校または中学校受験者で、小中両方の普通免許状を所有
- ②小中高受験者で英検・TOEFL・TOEICで、一定の基準以上の成績を有する
- ③中学校受験者で、司書教諭の資格を所有
- ④高校受験者で、情報の高校普通免許状を所有
- ⑤臨床心理士、社会福祉士、精神保健福祉士の資格を所有 など

平成30年度大阪府及び豊能地区公立学校教員採用試験（平成29年実施）

（１）募集人数、倍率（大阪府教育委員会発表）

① 小学校	592人程度	3.6倍（小中いきいき連携を除く）
② 中学校	298人程度	8.0倍（教科ごとに募集定員あり）
③ 高等学校	215人程度	11.9倍（教科ごとに募集定員あり）
④ 特別支援学校	60人程度	3.8倍（左記は小学部、中学部10.2倍、高等部2.9倍）
⑤ 養護教諭	35人程度	13.7倍
⑥ 栄養教諭	15人程度	6.8倍

（２）優遇措置

以下に相当する人は採用試験１次選考、２次選考で優遇措置がありました。詳しくは大阪府教育委員会のウェブサイト等を参照してください。

- ① 小、中高外国語受験者で、英検、TOEFL、IELTS、TOEICで一定の基準以上の成績を有する者は、１次選考で加点する。
- ② すべての校種教科受験者（養・栄のみ除く）で、司書教諭の資格を所有する者は加点する。
- ③ 大阪教志セミナー修了者は、１次選考（筆記、面接の両方）を免除する。
- ④ 平成27年度大阪府教員チャレンジテストで、正答率75%以上の者は、１次選考筆記テストを免除する。

※募集人員、倍率、加点や優遇措置などの条件は年度によって変更されます。各教育委員会のウェブサイトなどを調べ、最新の情報を手に入れるようにしましょう。

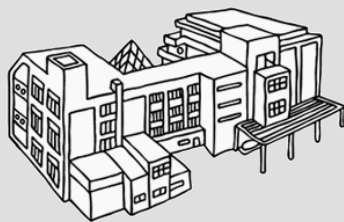
学校の組織と決裁

校務分掌のしくみ

学校には授業以外にさまざまな仕事があります。教員はそれらを分担して担当しています。このような分担を校務分掌といいます。下に、ある小学校の校務分掌の組織をあげます。中学校や高等学校では、これらに進路指導や入学試験に関する組織が追加されます。このような組織の形や仕事の分担、校務分掌の呼称は学校により異なります。

各校務分掌内ではさらに詳細な仕事分担が決まっています。そこから出された企画は、企画委員会（運営委員会と呼ばれることもある）や職員会議で検討・審議され、最終的に校長の決裁を得て実施されます。

学校組織



⑪校長決裁

⑩職員会議

⑨企画委員会

① 教務部

④生活指導部

②研修部

⑤保健体育部

③事務部

⑥文化部

⑦学年会

⑧教科会

職務の内容

- ①教務部 一年間の学校行事計画、時間割、指導要録や通知票の評価などの教育課程、入学、卒業、転入転出などの児童生徒の学籍について担当する部です。教務主任がその中心になります。
- ②研修部 学校の授業研究、教職員の研修、児童生徒の学習指導などを担当する部です。研修部長がその中心になります。
- ③事務部 学校の予算決算、諸費や給食費の徴収などを担当する部です。通常、学校事務職員はこの部に入ります。事務部長がその中心になります。
- ④生活指導部 中高等学校では、生徒指導部という名称になります。児童生徒の生活面の指導、児童会生徒会活動、部活動などを担当する部です。生徒指導主事または生活指導部長がその中心になります。
- ⑤保健体育部 児童生徒の健康安全、運動会（体育大会）や健康診断などの保健体育関係の学校行事などを担当する部です。通常、養護教諭や栄養教諭はこの部に入ります。保健主事または保健体育部長がその中心になります。
- ⑥文化部 文化祭や視聴覚鑑賞会という文化関係の学校行事、図書館の活用などを担当する部です。文化部長がその中心になります。
- ⑦学年会 それぞれの学年の児童生徒の指導の詳細、行事の詳細を担当します。担任をもたない教員もどこかの学年に所属します。各学年主任がその中心になります。
- ⑧教科会 それぞれの教科の学習指導、評価、備品管理などを担当します。小学校教員にも教科の担当があります。各教科部長がその中心になります。
- ⑨企画委員会（運営委員会） 各校務分掌の部長、学年主任などからなる会で、学校全体に関わる課題の解決や職員会議の議案整理を行います。通常、教務主任がその中心になります。
- ⑩職員会議 校長が主宰する会議で、全教職員が参加し月に一回程度開かれます。各校務分掌から出された企画の相互理解、教職員の研修などの役割があります。
- ⑪校長決裁 学校が行うすべての教育活動は、校長の決裁で行われます。そのため、校長はその結果すべてに責任を負うことになります。



奈良教育大学カリキュラム・フレームワーク

優れた教師を目指して

4年間で身につけて欲しい知識・能力

奈良教育大学では、教員養成教育の質向上と学生の教師力育成をめざして、「新任教員に求められる資質能力目標に基づく教員養成のためのカリキュラム・フレームワーク」を示しながら、教育活動の評価・改善に努めています。学内では、Cuffet(カフエット)の愛称で呼ばれています。

あなたは、Cuffetを通じて、新任教員に求められる資質能力目標に照らして授業科目を選択し、教職の学びを積み上げていきます。

大学で展開している授業科目の多くは、Cuffetと対応しています。奈良教育大学・シラバス検索システムで授業科目を検索すると、「Cuffet項目」という欄があり、各科目で育成を目指す代表的なCuffet項目が1つ掲載されています（もちろん1つの科目が1つのCuffet項目のみを目指して編成されているわけではありません）。履修の際の参考にしてください。

奈良教育大学 学校教育教員養成課程 7つの資質能力目標基準 Cuffet

1 学校教育の課題把握

教育の目的・歴史、人権、さらには教育や学校に関する法令などを理解し、現代的な教育課題を把握できる。

2 教科・領域に関する基礎的知識と教育実践への具体化

小学校、中学校の教科内容とその系統性を理解し、教育実践に活用することができる。

3 情報活用能力

主な情報機器を利用し、獲得した情報を教育活動に具体化できる。

4 授業力

4.1 学習設計

学習指導計画立案に関する基本的事項を理解し、児童・生徒の発達段階に応じて作成することができる。

4.2 学習指導

多様な指導方法を理解し、児童・生徒の発達段階に応じた指導をすることができる。

4.3 学習評価

多様な評価方法を理解し、児童・生徒の発達段階に応じて用いることができる。

5 児童・生徒理解と教育実践への具体化

児童・生徒の身体的・認知的・情意的発育・発達に関する基礎的内容を理解し、教育実践に具体化できる。

6 学校と地域社会との連携

学校の組織的な教育活動や経営活動、地域の教育活動などに関わることの重要性を理解し、教育活動に生かすことができる。

7 職能成長

教師の仕事や役割、責任を自覚した上で、教師として自己成長する意味とその方法を理解し、自ら実践することができる。

※幼稚園教諭を目指している人は、「学校」を「園」に、「授業」を「保育」に、「児童・生徒」を「幼児」に、それぞれ読み替えてください。



履修記録（学務情報システム）

教師力を高めるための学びを積み上げる

奈良教育大学では、4年間の教員養成カリキュラムを中心として教職の学びを積み上げていきます。あなたは、その学びの状況を自らで把握しながら、得意な分野・内容をより伸ばしていくとともに、不得意な分野・内容をカバーし、確かな教師力を身に付けていくために、履修計画を随時見直していかなければなりません。

自らの教職の学びの状況を学期ごとに点検・確認し、次の学期の学びの計画につなげていく仕組みとして奈良教育大学が提供しているのが、学務情報システム内にある「履修記録」です。あなたは、4回生後期に開講される教職実践演習などの機会において、「履修記録」などの根拠資料(evidence)を示しながら、4年間の教職の学びを通してどれだけの教師力を身に付けたかを証明することが求められます。

4回生になって大慌てで根拠資料を掘り起こしても、「後の祭り」になる恐れがあります。1回生のうちから、あなたがどういう教職の学びを経てどういう教師力を身に付けたのかということについての根拠資料を蓄えていってください。

学びの積み上げを振り返る〔履修記録〕

奈良教育大学 履修記録（学生自己評価）様式 《自己評価シート》

項目1	項目2	指標	自己評価 1年次		2年次	3年次	4年次
			前期	後期	前 後	前 後	前 後
1. 学校教育の課題把握	1 教職の意義	教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
	2 教育の理念・教育史・思想	教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
	3 学校教育の社会的・制度的・経営的側面	学校教育の社会的・制度的・経営的側面についての基礎理論・知識を習得していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
2. 教科・領域、教育課程に関する基礎的知識と教育実践への具体化	4 教科・領域の内容	これまで履修した各教科・領域の内容を理解していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
	5 教科書・学習指導要領	教科書や学習指導要領、幼稚園教育要領の内容を理解していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
	6 教育課程の編成	教育課程の編成についての基礎理論・知識を習得していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
	7 教科以外の活動	道徳・特別活動・総合的な学習の時間などの指導法や内容についての基礎理論・知識を習得していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
	8 学級経営	学級集団形成に必要な基礎理論・知識を習得し、学級経営案を作成することができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
3. 情報活用能力	9 教育実践への具体化	4～8で得た理解や知識を、教育実践に活用することができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
	10 情報機器の基礎理論	情報教育機器の活用についての基礎理論・知識を習得していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
	11 情報機器の教育的活用	教育活動において、情報教育機器を有効に活用することができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
4. 授業力 4-1 (学習設計) 4-2 (学習指導) 4-3 (学習評価)	12 学習指導・評価法	学習指導・評価についての基礎的な知識や方法を習得していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
	13 教材研究力	教材について深く調べて分析したり、価値づけたりすることができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
	14 授業構想力	教材研究を生かした授業を構想し、子どもの反応を想定した指導案または保育案を作成することができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
	15 教材開発力	教科書などにある題材や單元等に応じた教材・資料を開発・作成することができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
	16 授業展開力	子どもの状況や学習環境を把握し、学習課題に沿った授業または保育を展開することができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
5. 児童・生徒理解と教育実践への具体化	17 指導技術	板書や質問、的確な話し方など授業や保育を行う上での基本的な指導の技術を身に付けていますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
	18 心理・発達論的な子ども理解	子ども理解のために必要な心理・発達論の基礎知識を習得していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
	19 子どもの状況に応じた対応	個々の子どもの特性や状況に応じて、指導や相談にの方法を理解していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
	20 発達段階に対応したコミュニケーション	子どもたちの発達段階を考慮して、適切に接することができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
	21 子どもに対する公平・共感的態度	子どもたちに、公平で共感的な態度で接することができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
6. 学校と地域社会との連携	22 保護者・地域との連携協力	保護者や地域との連携・協力の重要性を理解していますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
	23 役割遂行	学校や地域社会の中で率先して自らの役割を見つたり、与えられた役割をきちんとこなすことができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
7. 職能成長	24 他者の受容と連携・協力	他者の意見やアドバイスに耳を傾け、連携・協力して教育活動などの課題に取り組むことができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
	25 教師としての課題認識と探求心	教師として自己成長する方法を理解し、自ら実践することができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
	26 教育時事問題	学校教育に関する新たな課題に関心を持ち、自分なりに意見を持つことができますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			
	27 社会人としての基本	挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方など、社会人としての基本的な事項が身に付いていますか。	1・2・3・4・5	1・2・3・4・5			

優れた教師を目指して

履修記録とCuffetの対応

履修記録で自己評価を行う27の項目（自己評価シートの「項目2」と「指標」）は、Cuffetの7項目（自己評価シートの「項目1」）と対応しています。自己評価の際に評定を迷ったときには、あなたが履修した授業科目に割り当てられているCuffet項目を参照してください。

Cuffet項目		履修記録の自己評価項目（指標）
1	学校教育の課題把握	教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解していますか。
		教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得していますか。
		学校教育の社会的・制度的・経営的側面についての基礎理論・知識を習得していますか。
2	教科・領域、教育課程に関する基礎的知識と教育実践への具体化	これまで履修した各教科・領域の内容を理解していますか。
		教科書や学習指導要領・幼稚園教育要領の内容を理解していますか。
		教育課程の編成についての基礎理論・知識を習得していますか。
		道徳・特別活動・総合的な学習の時間などの指導法や内容についての基礎理論・知識を習得していますか。
		学級集団形成に必要な基礎理論・知識を習得し、学級経営案を作成することができますか。
3	情報活用能力	4～8で得た理解や知識を、教育実践に活用することができますか。
		情報教育機器の活用についての基礎理論・知識を習得していますか。
4	授業力 －1（学習設計） －2（学習指導） －3（学習評価）	教育活動において、情報教育機器を有効に活用することができますか。
		学習指導・評価についての基礎的な知識や方法を習得していますか。
		教材について深く調べて分析したり、価値づけたりすることができますか。
		教材研究を生かした授業を構想し、子どもの反応を想定した指導案または保育案を作成することができますか。
		教科書などにある題材や単元等に応じた教材・資料を開発・作成することができますか。
5	児童・生徒理解と教育実践への具体化	子どもの状況や学習環境を把握し、学習課題に沿った授業または保育を展開することができますか。
		板書や発問、的確な話し方など授業や保育を行う上での基本的な指導の技術を身に付けていますか。
		子ども理解のために必要な心理・発達論的基礎知識を習得していますか。
		個々の子どもの特性や状況に応じて、指導や相談にのる方法を理解していますか。
6	学校と地域社会との連携	子どもたちの発達段階を考慮して、適切に接することができますか。
		子どもたちに、公平で共感的な態度で接することができますか。
		保護者や地域との連携・協力の重要性を理解していますか。
7	職能成長	学校や地域社会の中で率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割をきちんとこなすことができますか。
		他者の意見やアドバイスに耳を傾け、連携・協力して教育活動などの課題に取り組むことができますか。
		教師として自己成長する方法を理解し、自ら実践することができますか。
		学校教育に関する新たな課題に関心を持ち、自分なりに意見を持つことができていますか。
		挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方など、社会人としての基本的な事項が身についていますか。

なお、自己評価は5段階尺度で評定します。学務情報システムの学生自己評価登録画面では、次を目安として総合評価することとしていますが、（1 まったくあてはまらない 2 あまりあてはまらない 3 あてはまる 4 よくあてはまる 5 とてもよくあてはまる）たとえば次のような基準を目安に考えるなどして、4年間で一貫した評価基準を持つようにしてください。これらの自己評価の過程と結果、ならびにその根拠については、「教職実践演習」の時間などで説明を求められることがあります。

- 尺度1 まったく理解していない（またはできない）。指標に書かれていることそのものが理解出来ない場合も、この評定としてください。
- 尺度2 あまり理解しておらず（できず）、人に説明できない（人前で実演できない）。
- 尺度3 だいたい理解して（できて）おり、テキストやガイドを見ながらであれば人に説明することができる（人前で実演することができる）。
- 尺度4 ひと通り理解して（できて）おり、概要を人に説明することができる（人前で実演することができる）。
- 尺度5 ひと通り理解した上で（できた上で）、実際に教育実践に応用している。



3つのカリキュラム系列

3系列の学び

奈良教育大学の教員養成カリキュラムでは、大きく3つの系列に沿って科目を編成しています。科目編成の全体については「カリキュラム履修記録」の欄（33ページ～）を参照してください。

教職系列

実践系列

教科系列

教職系列（1～2年次配当科目）

教職系列では、教育学や心理学に裏付けられた理論や方法を学びます（理論知）。とりわけ1～2年生次配当科目では、導入的・基礎的な内容を学びます。

教育基礎論

Cuffet 1

近現代における教育の理念・思想の形成過程について理解することにより、将来教育活動に従事する際に必要となる基礎的な知識を身につけます。

教育心理学

Cuffet 5

教育活動を心理学的に分析し、教育活動を効率よく行うために必要な条件を研究する態度を習得するとともに、教育心理学の基礎知識を身につけます。

教育方法・
メディア

Cuffet 4

実際に教員として教育技術を磨いていくための第一歩として、そのもっとも初歩的な知識と能力を身につけます。

カリキュラム論

Cuffet 4

教育課程（カリキュラム）に関する基本的な知識を習得するとともに、教育課程（カリキュラム）の観点から、各教科等の授業を構成するための基本的な知識と能力を身につけます。

教育社会学

Cuffet 1

社会とのつながりの中で教育をとらえ、社会にとって教育とは何なのか、教育を通して子どもは社会の中でどのように位置づいていくのかを学びます。

教育経営
行政論

Cuffet 1

教育経営・行政の基本原理に関する知識を得ると共に、特に、今日の中心的論点の一つである義務教育財政の在り方について深く理解することを目的としています。

板書実践
指導

Cuffet 4

単に文字を整えて、美しく書くだけではなく、文字の大小やまとめ方、配置やレイアウトなどを板書実体験を通して学びます。

生徒指導・
教育相談Ⅰ

Cuffet 5

子どもたちが抱える様々な問題（不適応等）への対応やその予防に関することだけでなく、子どもの「力」（コミュニケーション能力等）をさらに引き出すための基礎的な知識や基本的な実践力を身につけます。

これらの科目のほか、幼稚園教諭免許状の取得にかかわって、「幼児と教育」「幼児と人間関係」などの科目を展開しています。

教職系列（3～4年次配当科目）

3～4年次配当科目では、実践系列科目の「教育実習事前・事後指導」「教育実習」と関連しながら、より実践的・応用的な内容を学びます。

道徳教育の
理論と方法
Cuffet 2

道徳教育の理論と歴史を理解し、学校における道徳の目的・学習内容・方法を学びます。授業案の作成を通して、教師になるにあたって必要な教授・学習スキルの基礎を身につけます。

特別活動の
理論と方法
Cuffet 2

子どもたちの思考や感情、行為の調和的かつ個性的な発達の基礎をつちかう「特別活動」のあり方について学習します。

生徒指導・
教育相談Ⅱ
Cuffet 5

生徒指導や進路指導に関する知識の定着、カウンセリングや対立解消スキルの獲得、感受性の開発を目指します。

これらの科目のほか、教員免許状取得の必修科目ではありませんが、より高度で専門的な教職の学びを深めるために、次のような科目を展開しています。これらは教育発達専攻の教育学専修・心理学専修・特別支援教育専修の専修専門科目ですが（「学級づくり」を除く）、他専修の学生も履修することが出来ます（一部科目で履修制限あり）。教職の学びを深めるため、ぜひ積極的にチャレンジして下さい。なお、各科目の配当学年や履修要件については、「履修の手引き」やシラバスを参照して下さい。

教育哲学・思想
特講

教育史
特講

教育社会学
特講

教育経営学
特講

教育方法学
特講

教育課程
特講

教育工学
特講

生涯教育
計画特講

教育人権アプローチ
特講

指導と評価

学習心理学

発達心理学

学級づくり

障害児の
発達と学習

子どもの精神と
心のケア



実践系列（１～２年次担当科目）

実践系列では、学校や園などの現場で体験、観察、実習を積み重ねることで、教育実践に関する知識と方法・技術を学びます（実践知）。とりわけ１～２年生次担当科目では、現場での体験や観察を通して、３～４年次の教育実習に向けての知識・能力・態度面での準備を行います。

教職入門

Cuffet 7

講義とディスカッションを通して、教職を学ぶ者として、受け身から主体へと立場を転換していくことをめざします。

現代教師論

Cuffet 7

現場の実際の姿に触れながら、義務教育全体を見渡して、自らの進路イメージを形成し、当面の「学ぶ方針」を作成します。

介護等体験

特別支援学校や社会福祉施設等において、障害者、高齢者の方に対する介護・介助や、交流などの体験をとおして、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する知識を深め、教員としての資質の向上を図ります。

教育実習
スタートアップ

上級生の教育実習の姿を観察することを通して、教育実習の内容と方法に関する基本的な知識を得るとともに、教育実習に向かう態度（構え）を醸成することをめざします。

教育実践
基礎演習

Cuffet 5

教育実習の場で教育実習生として教育実践を行っていくにあたって必要な知識・技能・資質について学びます。とくに、授業や保育の場面において子どもが何を望み、何を考え、そして何を得ているのかについての理解をはかります。

実践系列（３～４年次担当科目）

３～４年次担当科目では、教育実習生として実際に子どもたちに教育活動を行うことで、教育実践に関するより高度な内容を学ぶとともに、教員養成カリキュラムで習得した知識や能力の総仕上げを行います。

教育実習
事前・事後指導

Cuffet 4

６月あるいは９月に教育実習に赴くための準備を整えます。講話や観察を通して、授業や保育を構成するための方法や技術について学びます。

教育実習
（基礎）

卒業要件となる免許種（幼・小・中・高）について、４単位１２０時間を充当する期間の教育実習を行います。教室や保育室での教育活動だけでなく、様々な場面で行われる教育指導の目的・内容・方法技術について、実践的に学びます。

教育実習
（応用）

教育実習（基礎）を履修した学生が、さらに応用的な学びを行うために、２単位６０時間を充当する期間の教育実習を行います。より深い子ども理解をはかるとともに、より高度な教育指導力を育みます。

教職実践演習

Cuffet 7

ディスカッションや模擬授業を通して、教員としての資質能力が身についているかどうかを確認します。教員をめざして、大学の授業内・外の活動で学んできたことをふりかえり、自分の中に蓄積していく作業となります。

教科系列

教科系列は、大きく「教科教育に関する科目」と、「教科専門に関する科目」に分かれています。「教科教育に関する科目」では、各教科の指導方法について学びます。「教科専門に関する科目」では、各教科の指導内容について学びます。

教科教育法科目 (群)

小学校免許を取得する学生は、「初等教科教育法（国語）」など、教科ごとの初等教科教育法科目を履修します。中学校、高等学校免許を取得する学生は、「中等教科教育法Ⅰ（国語）」など、中等教科教育法科目を履修します。

初等教科 実践指導

児童が実技でつまづくポイントを理解し、その指導のあり方を考えるとともに、小学校の教科内容に基づき自らの実技的技能を伸ばします。

小学校教科科目 中学校教科科目

幼稚園、小学校免許を取得する学生は、「小学校（幼稚園）教科科目」を、中学校、高等学校免許を取得する学生は、「中学校（高等学校）教科科目」を、それぞれ履修します。

なお、以上の説明は、本学の「履修の手引き」に掲載されている科目区分名称と異なっています。本学の正式な科目区分で言うと、「教科教育に関する科目」は、「教職科目」中の「実践教職科目 教育課程及び指導法に関する科目」ならびに「教職関連科目」の一部に相当します。「教科専門に関する科目」は、「教科等専門科目」の「小学校（幼稚園）教科科目」ならびに「中学校（高等学校）教科科目」に相当します。

応用的、発展的な学び

以上の3系列からなる教員養成カリキュラムと並行して、それぞれの専修に提供されている「専修専門科目」を履修し、専修ごとの専門性を高めていきます。これらの学修成果は、4年次に課される卒業論文に結実していきます。

あわせて、大学が提供している「特色プログラム」や「資格プログラム」を受講し、教員になるための自らの「強み」を磨いていくこともできます。

以下に、「資格取得プログラム」と「特色プログラム」を紹介します。プログラムは新設されたり廃止されたりすることもありますので、学内の掲示板を見て最新の情報を手に入れるようにしてください。

資格プログラム

養護教諭
高等学校教諭（情報）
学校図書館司書教諭
社会教育主事（任用資格）
学芸員
スポーツ指導者
認定心理士（申請資格）
保育士
教育支援人材こどもパートナー（認証）
教育支援人材こどもパートナー（学校活動支援 認証）
教育支援人材こどもパートナー（パ®ルユレ 認証）

特色プログラム

新理数（SST）
新理数（SSTベーシック）
食育・健康教育
教育・心理探求
保育士試験受験応援
実践的特別支援教育
文化遺産教育
スクールサポーター（1級）
スクールサポーター（2級）



教師力サポートオフィス・モデル教室

優れた教師を目指して

教師力サポートオフィスとは？

奈良教育大学には、教師力サポートオフィスが設置されています。あなたが「教職の学び」を深めるなかで、自らの到達状況を把握したり、自己評価しながら「教師力」を身につけたりすることを通して、あなたがめざす教員の姿に近づくための支援を行います。文字通り、あなたの「教師力」を支える場として存在しているのです。

これから4年間の大学生活でいろいろな経験をする中で、「自分は教師に向いているのだろうか？」「教師の仕事って授業以外に何があるのかな？」「自分はどんな先生になりたいんだろう？」など、いろいろな疑問がわいてくることもあるでしょう。大学の先生に相談する、友達と語り合うなど、解決の方法はたくさんありますし、人それぞれだと思いますが、教師力サポートオフィスのことも思い出してください。もしかしたら、何かいいヒントが見つかるかもしれません。

教師力サポートオフィスでできること

あなたが教師力サポートオフィスでできることには、次のようなものがあります。

*教師力を高めることを支えます！

1. 模擬授業、教育実習などで使う、教材づくりの支援
2. 教科書、指導書の閲覧（一時持ち出しのみ可）
～教師力サポートオフィスには、教材づくりについての参考図書が配架されています。
また、モデル教室には、実際に教材を作るための材料や道具があります。
3. 参考図書、「教師力100冊」の閲覧（貸出期間：2週間）
4. 教育をテーマにしたDVDの視聴、貸出
～あなたにとって理想の教師とは？ 図書やDVDからイメージをふくらませてみてください。
5. 教育実習やスクールサポートのリフレクション
6. 教職検定受検、予習
7. 教師力サポートオフィス企画への参加

*あなたの自主的な活動を支えます！

8. 学生主体の勉強会の開催支援
9. モデル教室の使用受付
10. ケースメソッドによるワークショップ

*その他

11. 教職ノートの配布（ワークシート補充など）





モデル教室があります！

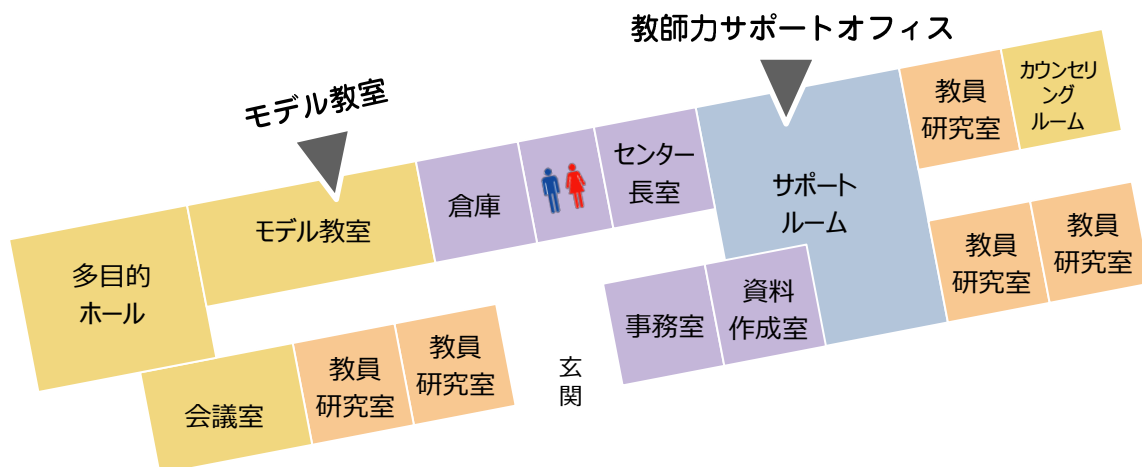
次世代教員養成センター2号館の一角に、実際の学校教室を模したモデル教室があります。机・いすを24セット、黒板、教卓、教壇、ロッカー、掃除用具入れ、電子オルガン等、一般的な教室にあるものをひと通り備えています。掲示物の中には、みなさんの先輩が作成したものもあります。

現場に近い臨場感のなかで、模擬授業の練習などをしてみませんか？



教師力サポートオフィスとモデル教室はどこにあるの？

次世代教員養成センター2号館の中にあります。通用門から構内に入って、附属小学校に向かう坂道の途中にある、白い壁の平屋建ての建物です。気軽にのぞいてみてください。





めざす教員の姿～教師力100冊

あなたがめざす教員の姿は？

教師力サポートオフィスでは、あなたが教員という仕事への関心や理解をより深めていくことを目的として、書籍や映像資料等からなる「教師力100冊」を配架しています。長期休業の期間などを用いて「教師力100冊」を読んだり視聴したりすることで、教員という仕事をより具体的にイメージするとともに、あなたが目指す教員像やなりたい教員像を明らかにしてもらうことを期待しています。

下記に「教師力100冊」の一部を紹介します。最新の配架情報は、実際に教師力サポートオフィスを訪れて確認してください。また、ウェブサイトでも配架一覧を示しています。

「教師力100冊」は貸出をすることもできます。手続きの方法や期日などについては、教師力サポートオフィスの担当スタッフに問い合わせてください。

優れた教師を目指して

ジャンル	作品名	備考
小説	重松清『きよしこ』	小学校
小説	重松清『小学五年生』	小学校
小説	重松清『カカシの夏休み』	小学校
小説	小松江里子『ガッコの先生』	小学校
小説	石田衣良『5年3組リョウタ組』	小学校
小説	重松清『青い鳥』	中学校
小説	瀬尾まいこ『温室デイズ』	中学校
小説	瀬尾まいこ『見えない誰かと』	中学校
小説	石田衣良『4 TEEN』	中学校
小説	重松清『気をつけ、礼。』	中学校、高校
小説	中沢けい『楽隊のうさぎ』	高校（部活）
小説	佐藤多佳子『一瞬の風になれ』	高校（部活）
小説	山口瞳『けっばり先生』	高校
ノンフィクション	黒田恭史『豚のPちゃんと32人の小学生 命の授業900日』	小学校
ノンフィクション	宮本延春『オール1の落ちこぼれ 教師になる』	小学校
ノンフィクション	山本純士『15メートルの通学路』	院内学級
ノンフィクション	松崎運之助『夜間中学があります！』	夜間中学
ノンフィクション	川村たかし『昼と夜のあいだ 夜間高校生』	夜間高校

ジャンル	作品名	備考
ノンフィクション	無着成恭編『山びこ学校』	中学校
ノンフィクション	NHK子どもプロジェクト『4年1組命の授業 金森学級の35人』	小学校
ノンフィクション	水谷修『夜回り先生』	
児童書・絵本	蒔田晋治『教室はまちがうところだ』	小学校
児童書・絵本	『ちびまるこちゃん—教育実習の先生の巻』	小学校
児童書・絵本	おかもとよしこ・山本冬児『つうしんぼのない学校』	小学校
児童書・絵本	谷川俊太郎『ともだち』	小学校
児童書・絵本	はやみねかおる『ぼくらの先生！』	小学校
アニメ・マンガ	戸部けいこ『光とともに』	特別支援学校
アニメ・マンガ	荒川弘『銀の匙』	高校（農業）
テレビドラマ・映画	ガッコの先生	小学校
テレビドラマ・映画	機関車先生	小学校
テレビドラマ・映画	女王の教室	小学校
テレビドラマ・映画	ハガネの女	小学校
テレビドラマ・映画	終戦60年特別ドラマ 二十四の瞳	小学校
テレビドラマ・映画	ブタがいた教室	小学校
テレビドラマ・映画	青い鳥	中学校
テレビドラマ・映画	3年B組 金八先生 第8シリーズ	中学校
テレビドラマ・映画	チャレンジド	中学校
テレビドラマ・映画	学校Ⅰ	夜間中学
テレビドラマ・映画	ふたつのスピカ	高校
テレビドラマ・映画	学校Ⅱ	特別支援学校
テレビドラマ・映画	赤鼻のセンセイ	院内学級
テレビドラマ・映画	夜回り先生 水谷 修のメッセージ 生きていてくれて、ありがとう	



ケースメソッドによる教師力の育成

ケースメソッドとは

「こんな時どうすれば・・・」。あなたが将来勤務する学校現場では、その場で判断が求められる事態が頻繁に起こります。子どものこと、保護者のこと、同僚の先生のこと、仕事の内容のことなど無数にありますが、教師力のある先生は、これらに対して次々と適切な判断を下し、事態に含まれる課題を解決していきます。この課題を解決する力は、教師力の大きな要素です。教師力サポートオフィスでは、あなたが大学の教室で課題解決を経験できる123のケースを開発しました。

ケースメソッドの方法

ケースとは、あなたが課題解決の経験ができるよう実際に学校で起こった事態を100字から200字で再構成したものです。ケースメソッドは、10人ほどのグループで下の①～③の流れに沿って行います。約40分で一つのケースを扱います。

ケースの例とケースメソッドの標準的な手順をあげます。

* ケース例

「いじめられている。」と保護者が突然来校

あなたは、小学校2年生を担任しています。ある日の朝、担任をしている児童の両親が突然職員室へ来て、「私たちの子どもがいじめられている。相手もわかっているからその子連れられてきてほしい。私たちが指導する。」と言いました。あなたは、この両親にどのように対応しますか。

* ケースメソッドの標準的な手順

- ① 個人の判断と対応の記述（約10分）：ケースを読み、自分の判断と対応及びその根拠を記述します。この段階では授業などで得られた知識、自分の価値観や経験をもとに、個人としての最適と思われる対応を作り上げます。
- ② グループ討議（約20分）：グループで個人の判断や対応を交流します。ここでは、知識の有無、経験の違い、ケースを見る視点の違いから生じるさまざまな対応が交換されます。参加者は、さまざまな対応に触れ自分の考えを昇華させます。
- ③ ファシリテーター（大学教員）を加えての考察（約10分）：ファシリテーターから、ケースの背景、関連知識、各判断についての解説やその根拠、ケースに対する新しい視点が示されます。実際にはその都度その都度の適切な対応が重なり、課題が解決へと向かいます。参加者は、今まで自分が知らなかった知識や視点を自分に取り入れ、より現実的に課題を解決する力を身に付けます。

実際の学校においても、課題解決に正解というものはありません。また、十分な準備をもって臨めるというものでもありません。現場の教員は、その時の人的、時間的、物理的制約を踏まえた判断により、目の前の課題に対する実行可能な解決策を導くのです。教師力サポートオフィスでは、このような解決策を最適解と呼んでいます。ケースメソッドは、あなたが出会うであろう未知のケースへの最適解を求める練習の場なのです。

教師力サポートオフィスが実施したケースメソッドの参加者は、次のような感想を寄せてくれています。

「教育実習の場でも、喧嘩する児童や掃除をさぼる生徒がいて、どう対応すればよいのか悩む場面がありました。（中略）現場に出れば、このような問題に直面した場合に即座に対応しなければいけないのは自分です。そのことへの自覚と、適切な対応の素地を学ぶことができました。」

「私が学校という現場をまだまだ知らないということを痛感させられる時間でした。このときにはこうしたらい、という模範解答はないにしても、自分がケースメソッドと同じ現場に出くわした時にはここで学んだ行動の選択肢を考えればよいということが分かり、私が教員になったときに大変役に立つ知識を得ることができたと感じました。」

123のケースのタイトル一覧を次のページにあげます。これらには、下の分類による分類番号を付けています。自分に必要なケースから取り上げてください。また、いくつかのケースメソッドを、[奈良教育大学ウェブサイト]ー[教師力モデル開発プロジェクト]ー[教師力を育むケースメソッド集]で紹介しています。

ケースのタイトル一覧

①校種

- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 1.幼稚園 | 2.小学校 | 3.中学校 | 4.高等学校 |
|-------|-------|-------|--------|

②ケースの領域

- | | | | |
|-------------|-----------|-------------|-----------|
| 1.教育課程 | 2.授業・学習指導 | 3.生徒指導・進路指導 | 4.特別支援教育 |
| 5.学校安全・学校事故 | 6.服務 | 7.研修 | 8.施設・設備 |
| 9.学校事務 | 10.保健・衛生 | 11.情報の公開・保護 | 12.学校と保護者 |
| 13.学校と地域社会 | 14.その他 | | |

③Cuffet（奈良教育大学の7つの資質能力目標基準）との対応

- | | | | |
|---------------|---------------------------|---------------------|--|
| 1.学校教育の課題把握 | 2.教科・領域に関する基礎知識と教育実践への具体化 | | |
| 3.情報活用能力 | 4.授業力 | 5.児童・生徒理解と教育実践への具体化 | |
| 6.学校と地域社会との連携 | 7.職能成長 | | |

No.	ケースのタイトル	①校種	②領域	③Cuf.
1	雨の日、傘をさしながら水やりをしている子どもがいる	2	2	4
2	嫌いなものを隣の子の弁当に入れていた	1	3	5
3	下足箱に、「死ね!」という手紙が入っていた	2	3	5
4	複数学級の子どもが関係する万引があった	2	3	7
5	授業中、先生の目を盗んで工作作品へのいたずらがあった	2	3	5
6	校舎の壁に落書きがされていた	2	3	5
7	子どもの靴がなくなった	2	3	5
8	不登校傾向の子どもが転入してきたが、教室へ行かない	2	3	5
9	授業中、子どもが突然教室から飛びだした	2	3	5
10	机の上を片付けられない子どもがいる	2	4	5
11	自閉的傾向の子どもが動かなくなった	2	4	5
12	不適切な行動に、「ごめんなさい」が言えない子どもがいる	2	4	5
13	大きな声で歌を歌わせたい	2	2	2
14	偏食で、給食を食べない子どもがいる	2	10	5
15	手洗い場に嘔吐した跡があった	2	10	1
16	給食の残量が多い	2	3	1
17	子どもの身体に青あざや傷を見つけた	2	10	1
18	子どもが廊下の窓からゴミを投げた	2	3	5
19	33人の学級で10人欠席であった	2	10	1
20	校外学習で生徒をきっちり並ばせるには	3	2	7
21	宿題を提出しない生徒が増えてきた	3	2	4
22	生理を理由に、水泳を見学する女子生徒が増えてきた	3	2	5
23	女子生徒との関係がうまくいかない	3	3	5
24	生徒が、「中学校の数学なんか大人になって役に立たない」と言う	3	3	5
25	部活動で、卒業まで一度も試合に出られない生徒がいる	3	3	5
26	バレーボール大会で優勝した生徒を褒めてやりたい	3	3	5
27	林間学舎の部屋長にリーダーシップを育てたい	3	3	5
28	「掃除しようか」と声をかけると、3人しかいない	3	3	5
29	卒業式で、変形学生服を着ようとしている生徒がいる	3	3	5
30	入試時期、インフルエンザで欠席の生徒が増えてきた	3	10	1
31	生徒が、「布教活動のため高校へは進学しない」と言った	3	3	5
32	人の気持ちを逆撫でする言葉を使う生徒がいる	3	3	5
33	障がいがある生徒がいる学級で、学級対抗リレーを指導する	3	4	5
34	テニスのインターハイ予選で、緊張している生徒に話をする	4	2	5
35	生徒から、「精一杯がんばっています」と言われた	4	3	5
36	保護者から、「携帯電話の番号を教えてください」と言われた	2	11	1
37	保護者から、「私たちの家では肉類は食べない」と申し出があった	2	12	1
38	「登下校中、名札を付けたままでは危険」という意見があった	2	11	1
39	給食費が滞納されている	2	12	1
40	家庭訪問で1時間以上遅れた	3	12	7
41	保護者から、「宗教上の理由で校歌を歌えない」と申し出があった	4	1	1
42	「先生はうちの子ばかり注意する」と苦情があった	1	12	1
43	「同じクラスの幼児に噛まれるのでクラスを替えてほしい」と言われた	1	4	1
44	保護者が、「担任の対応が悪いから子どもが暴力をふるう」と言う	2	12	1
45	学校でのケガで、保護者から苦情があった	2	5	1
46	父親から、「遊んでいて割ったガラスは弁償の必要はない」と言われた	2	12	1
47	除去食が用意されていないことに立腹し、父親が教室へ来た	2	12	1
48	休憩時間中、子ども同士の喧嘩があり、片方がケガをした	2	5	7
49	運動会で、保護者の暴言があった	2	12	1
50	技能職員が保護者の苦情に謝罪した	2	12	1
51	保護者が、「経済的余裕がないので修学旅行を欠席させる」と言った	3	12	1
52	保護者の意向は、「あいさつができる子ども」だった	2	12	6
53	DV加害者の父親から、「子どもに会いたい」と連絡があった	2	11	1
54	P T A活動で、「ピカチュウ」の看板を作った	2	12	1
55	宿題プリントを配り忘れた	2	2	2
56	「いじめられている」と保護者が突然来校した	2	12	1
57	転校した子どもの保護者から、指導要録の開示請求があった	2	11	1
58	子どもをコントロールできなくなると、応援を求める先生がいる	2	2	4
59	「生徒がうるさく授業ができない」と先生が職員室へ帰ってきた	4	2	4
60	両隣の学級の先生が違う指導をしている	2	2	4
61	がんばった子どもへの顕彰に疑問を投げるかける先生がいる	2	3	5
62	今年赴任した初任者が、過去2年の成果を踏まえた人権教育の研究授業をすることになった	2	7	1

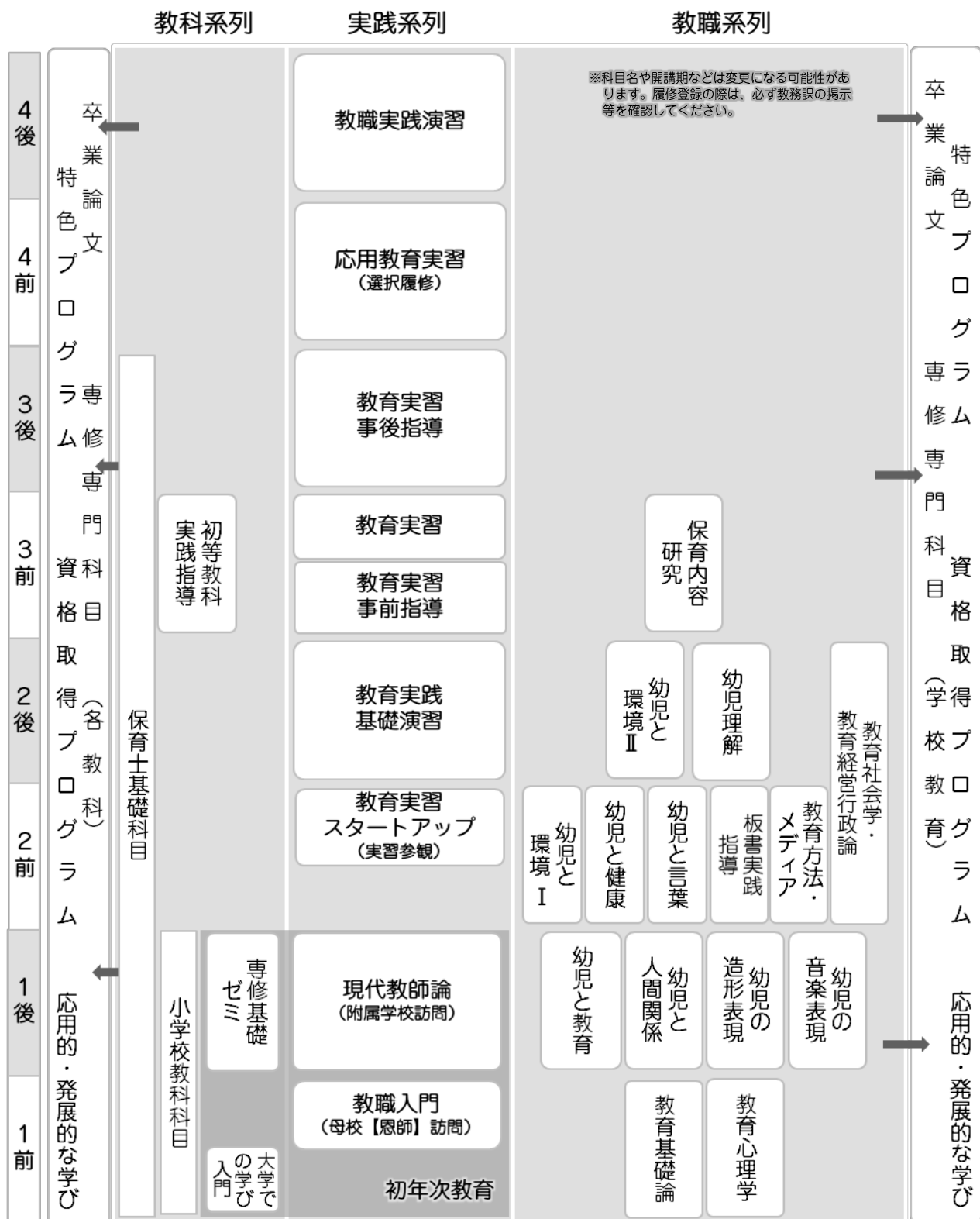
No	ケースのタイトル	①校種	②領域	③Cuf.
63	教科担任の先生から、「担任のしつけがなってない」と言われた	3	2	4
64	昨年度の担任が介入してくる	2	3	1
65	職員会議で、同じ校務分掌の先生から質問があった	3	6	1
66	問題集を切り貼りして練習問題を作っている先生がいる	4	2	1
67	自作プリントを使って授業をしている先生がいる	3	2	1
68	部顧問から、「修学旅行を休ませて試合に連れて行く」と言われた	3	1	1
69	校長先生に、「どうしたらいいですか？」と相談にいったが・・・	4	2	7
70	教頭先生から、今年の実践をまとめるように言われた	2	7	7
71	「学校のホームページの掲載要項を作してほしい」と言われた	2	11	1
72	教頭先生から、「防火管理者講習を受けないか」と言われた	3	7	7
73	校長先生から、「実践を県の研究会で発表しないか」と言われた	3	7	7
74	「総合的な学習の時間」についての話し合いで、体験活動の計画に終始した	3	2	2
75	学級開きを計画することになった	2	2	5
76	学級懇談会での講話を計画する	3	12	1
77	挨拶指導の効果を検証したい	2	3	1
78	不登校の生徒の指導で議論になった	3	3	1
79	「いい研修がある、来ないか」と誘われ、行くと職員団体の研修だった	2	7	1
80	障がいがある子どもへの指導はどうあるべきか	2	4	1
81	小学校1年生の「鑑賞」の指導方法、評価方法が話題になった	2	2	2
82	「関心・意欲・態度」の評価方法が議論になった	3	1	1
83	「総合的な学習の時間」の評価を3段階にという意見が出た	2	2	2
84	地域人材の老人が、意図通り進まない作業を子どもの責任にする	2	13	6
85	見守り活動をしている人から、保護者への苦言を聞いた	2	12	6
86	子どもが、暴力団事務所を校区内の危険箇所として挙げてきた	2	5	1
87	「『ちびっ子ひろば』で高学年の子どもが遊んでいる」と電話があった	2	13	6
88	「たばこを吸っている中学生を補導してほしい」と電話があった	3	3	1
89	校門を出たところで、塾関係と思われる人がピラを配っていた	3	13	1
90	子ども会の行事で、「お菓子をもらえない子がいた」と聞いた	2	13	6
91	修学旅行の打ち合わせで、業者の方から名刺をもらった	3	13	7
92	自治会長から、先生の服装へ苦言があった	4	6	6
93	児童相談所の職員が来校し、被虐待児を保護することになった	2	12	1
94	子どもが、上半身裸の写真を撮られた	2	13	6
95	入試の朝、「電車を降りられなかった生徒がいる」と連絡があった	3	3	1
96	子どもの下校時、通学路の踏切で事故があった	2	5	6
97	校門にニワトリが捨てられていた	2	10	1
98	授業時間中、校区内で火事があった	2	5	6
99	卒業式の式場配置の形式に関して、職員会議録の公開請求があった	2	11	6
100	子どもの下校時刻に雷が鳴り出した	2	5	1
101	授業中、トイレで火災が発生した	3	5	1
102	プールに藻が発生した	2	8	1
103	渡日児童が編入学することになった	2	1	1
104	担任が奉納したと思われる入試合格祈願の絵馬があった	3	3	5
105	校外学習の下見に行くことになった	2	2	7
106	避難訓練を計画することになった	2	5	1
107	修学旅行の見学形態を計画する	2	3	1
108	電車を使って校外学習に行くことになった	2	2	7
109	家庭訪問が有意義であるよう原案を考えることになった	3	12	6
110	小学校4年生の国語で、「ごんぎつね」の評価問題を作ることになった	2	2	2
111	皮膚炎のためプールに入れなかった子どもの水泳の評価はどうする	2	2	1
112	指導要録の評価と通知票の評価に整合性がない	2	1	1
113	2学期末に、授業時数をカウントすると道徳が20時間であった	2	1	2
114	中学校2年生の数学で、1学期の期末テストを作ることになった	3	2	2
115	他校へ研究授業を見に行くことになった	2	7	7
116	市教育研究会の懇親会に出ることにした	2	7	7
117	集めた校外学習費を紛失した	2	9	1
118	多数の書類をどう整理したらよいか	3	9	7
119	仕事がトリプルブッキングした	3	9	7
120	生命保険の勧誘があった	3	14	7
121	中学時代、指導が難しかった生徒から相談の連絡があった	3	3	1
122	まったく経験がないのに、野球部の顧問を頼まれた	4	1	7
123	「中学校1年生の課程修了を証明してほしい」と連絡があった	3	1	1



カリキュラム履修記録（幼稚園）

奈良教育大学では、みなさんを優れた教員・教育者として育てるために、4年間を見通した教員養成カリキュラムを編成しています。それぞれの科目（群）について、無事単位を習得したら、色を塗っていきましょう。

優れた教師を目指して





カリキュラム履修記録（小学校）

優れた教師を目指して

奈良教育大学では、みなさんを優れた教員・教育者として育てるために、4年間を見通した教員養成カリキュラムを編成しています。それぞれの科目（群）について、無事単位を習得したら、色を塗っていきましょう。

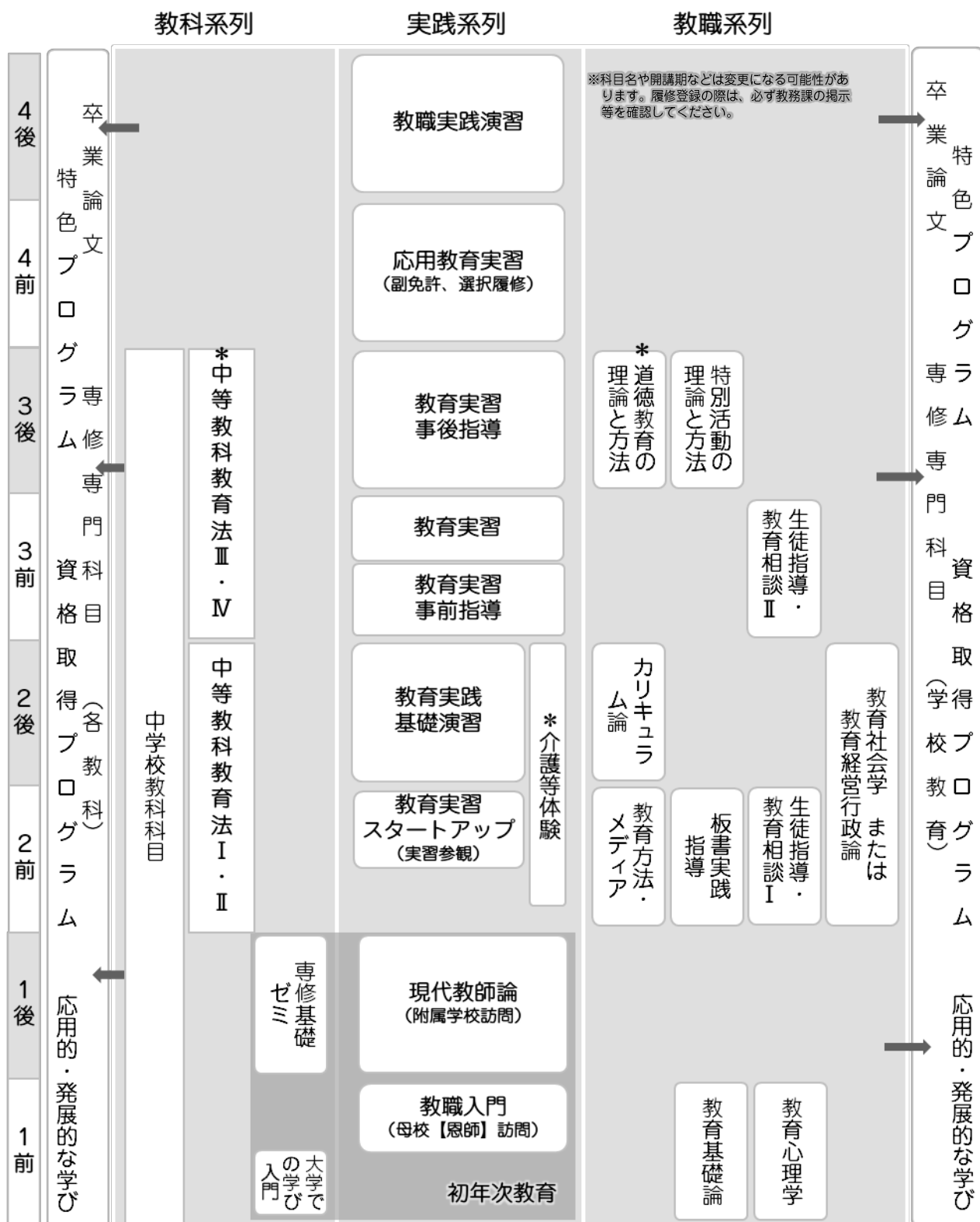
教科系列		実践系列		教職系列	
4後	卒業論文	教職実践演習	※科目名や開講期などは変更になる可能性があります。履修登録の際は、必ず教務課の掲示等を確認してください。	卒業論文	卒業論文
4前	専門科目	応用教育実習 (副免許、選択履修)		生徒指導・ 教育相談Ⅱ	専門科目
3後	専門科目	教育実習 事後指導		道徳教育の 理論と方法	専門科目
3前	初等教科 実践指導	教育実習		特別活動の 理論と方法	専門科目
2後	初等教科教育法	教育実習 事前指導		教育相談Ⅰ	専門科目
2前	初等教科教育法	教育実践 基礎演習	介護等体験	カリキュラム論	専門科目
1後	応用的・発展的な学び	教育実習 スタートアップ (実習参観)	現代教師論 (附属学校訪問)	板書実践 指導	専門科目
1前	応用的・発展的な学び	教職入門 (母校【恩師】訪問)	初年次教育	教育社会学 または 教育経営行政論	専門科目
	外国語活動	専修基礎 ゼミ		生徒指導・ 教育相談Ⅰ	専門科目
	小学校教科科目	大学の学び 入門		教育心理学	専門科目
				教育基礎論	専門科目



カリキュラム履修記録（中学校・高校）

奈良教育大学では、みなさんを優れた教員・教育者として育てるために、4年間を見通した教員養成カリキュラムを編成しています。それぞれの科目（群）について、無事単位を習得したら、色を塗っていきましょう。

優れた教師を目指して





カリキュラム履修記録（特別支援学校・小）

優れた教師を目指して

奈良教育大学では、みなさんを優れた教員・教育者として育てるために、4年間を見通した教員養成カリキュラムを編成しています。それぞれの科目（群）について、無事単位を習得したら、色を塗っていきましょう。

		教科系列	実践系列	特支系列	教職系列		
4後 4前 3後 3前 2後 2前 1後 1前	卒業論文		教職実践演習	※科目名や開講期などは変更になる可能性があります。履修登録の際は、必ず教務課の掲示等を確認して下さい。		卒業論文	特色プログラム
	特色プログラム		応用教育実習				専修専門科目
	専修専門科目		知的障害指導法実習		生徒指導・教育相談Ⅱ 特別活動の理論と方法（初等） 道徳教育の理論と方法（初等）		資格取得プログラム（学校教育）
	資格取得（各教科）	初等教科実践指導	教育実習事後指導 特別支援教育実習 教育実習 教育実習事前指導	病弱教育方法 肢体不自由教育方法 発達障害の理解と対応			
	プログラム	初等教科教育法	教育実践基礎演習 教育実習スタートアップ（実習参観）	聴覚障害児の教育 視覚障害児の教育 知的障害の医学 発達障害の心理学 病弱児の医学と心理	カリキュラム論（初等） 指導 教育相談Ⅰ 生徒指導・教育実践 教育社会学 または 教育経営行政論		
	応用的・発展的な学び	外国語活動 小学校教科科目 専修基礎ゼミ 小学校 の大学で入門	現代教師論（附属学校訪問） 教職入門（母校【恩師】訪問） 初年次教育	特別支援教育原論 重複障害教育の理論と実際	教育方法・メディア（初等） 教育基礎論 教育心理学		応用的・発展的な学び



カリキュラム履修記録（特別支援学校・中）

奈良教育大学では、みなさんを優れた教員・教育者として育てるために、4年間を見通した教員養成カリキュラムを編成しています。それぞれの科目（群）について、無事単位を習得したら、色を塗っていきましょう。

優れた教師を目指して

		教科系列	実践系列	特支系列	教職系列		
4後	卒業論文	中等教科教育法 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 中学校教科科目	教職実践演習	※科目名や開講期などは変更になる可能性があります。履修登録の際は、必ず教務課の掲示等を確認して下さい。		卒業論文	特色プログラム
4前	卒業論文		応用教育実習			卒業論文	特色プログラム
3後	専門科目		知的障害指導法実習			専門科目	資格取得プログラム
3前	専門科目		教育実習事後指導 特別支援教育実習 教育実習 教育実習事前指導	病弱教育方法 肢体不自由教育方法 発達障害の理解と対応	道徳教育の理論と方法（中等） 特別活動の理論と方法（中等） 生徒指導・教育相談Ⅱ	専門科目	資格取得プログラム
2後	資格取得プログラム		教育実践基礎演習 教育実習スタートアップ（実習参観）	聴覚障害児の教育 視覚障害児の教育 知的障害教育方法 知的障害の医学 発達障害の心理学 病弱児の心理学 医学と心理	カリキュラム論（中等） 教育方法・メディア（中等） 教育社会学 または 教育経営行政論 生徒指導・教育相談Ⅰ 板書実践指導	資格取得プログラム	資格取得プログラム
2前	資格取得プログラム		現代教師論（附属学校訪問）	特別支援教育原論	教育心理学 教育基礎論	資格取得プログラム	資格取得プログラム
1後	応用的・発展的な学び	専修基礎ゼミ	教職入門（母校【恩師】訪問）	重複障害教育の理論と実際		応用的・発展的な学び	応用的・発展的な学び
1前	応用的・発展的な学び	入学オリエンテーション	初年次教育			応用的・発展的な学び	応用的・発展的な学び